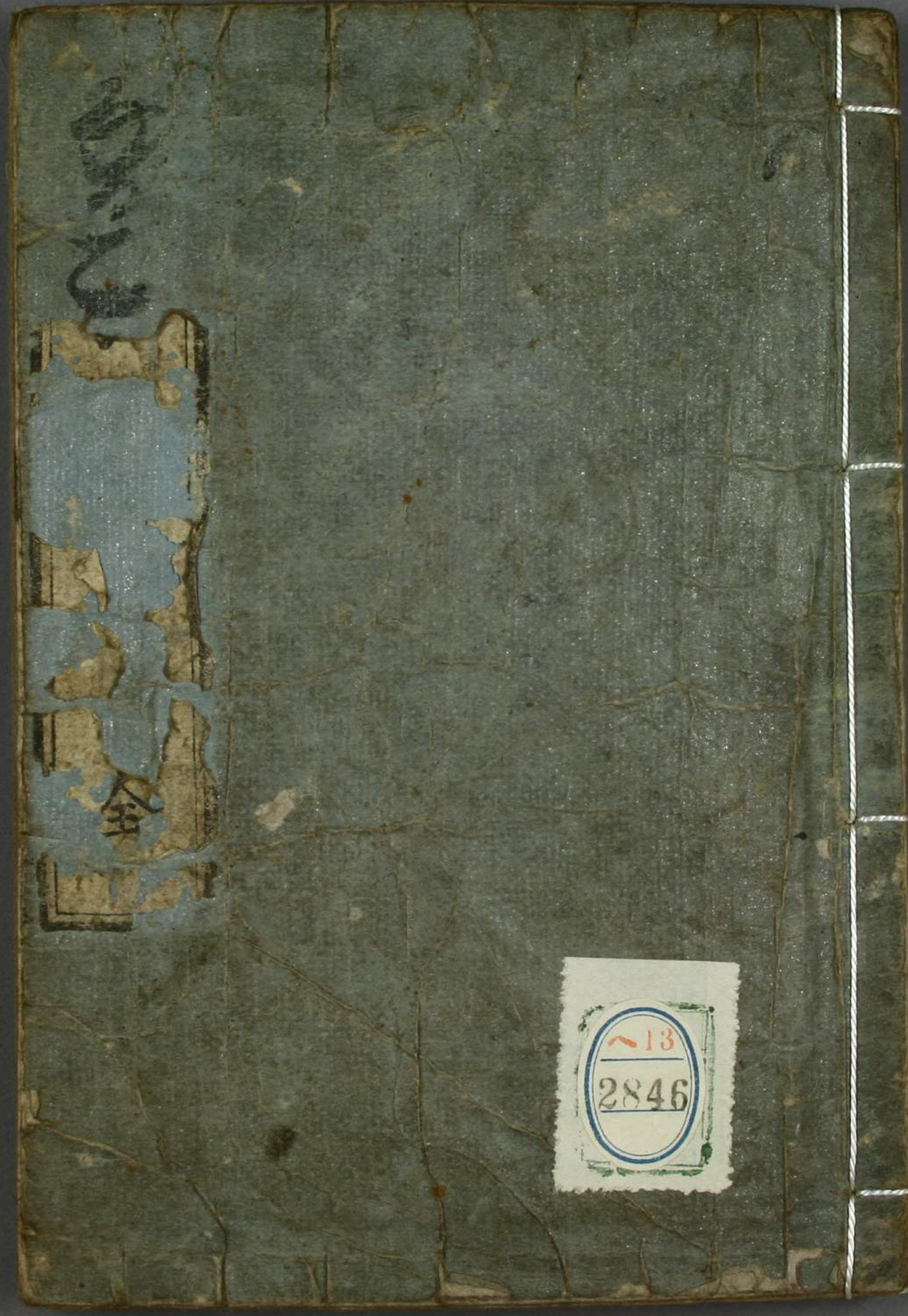




2846

へ 13
2846

旧
1984
23

鳴子瓜序

紫媛ハ法華經乃々々源氏の文を

あはれに余が反古のうらふ著を鳴子瓜

とハ何ぞや瓜の夢ふ梨子ハ生ズ成を

作者の方便品時々種ハ接木のもの

宛辨ハ速風より風車の如く筆ハ馳

馬乃糞^{くそ}成^な撒^さる^るが如^{ごと}し。作者^{さくしや}の妙^{めう}法^{ぽう}。
笑^{わら}ち^ちこ^ころ^ろへ^へ笑^{わら}日^ひと^とお^おれ^れが素^ゆろ^ろ本^{ほん}意^いと。
序^{ぎよ}品^{ひん}に^にだ^だみ^みお^お塩^{しほ}が辛^{から}く^くハ^ハ戲^ぎ作^{さく}者^{しや}流^{りゅう}
を改^か宗^{そう}し^しこ^こ高^{こう}野^やは味^み増^そす^す里^りこ^こま^ま
魚^{いし}し^しや^や云^{うん}云^{ぬん}。

丙寅青陽

振鷺亭主人題



錄目○例凡○瓜子鳴

其味ハ
享味ハ
其子部
是ー卷

柳巷說齋

凡例

此鮮物ハ
 此屋道具達
 此精進ハ
 信天茶漬茶碗

以方小傳てあらん時多きはの目よりれまご求ふりきふ
 風車が水車を中へ置きて他よりききとの娘様揃ふさ
 すが深き水も信ふ事り法の及ぶと振うはけり目智
 のふ天気が勇て色まきく岩口合を夕立ふあつたり
 湯へて人づきお合傘の乃ほいさぬ娘ふききこれ親仁
 是字余りのいそけ文句ふ南無妙法蓮華經といふて

おがむや
 顯因に糸車漬

張 四 山 谷 氏



四谷馬士喫

壯者咲といふあじや
熱でいふあじや
くさい中

相 糸
油 俵

卷二

上とをのちのち
江川流行唄

[illegible]

芋葉いものたの
合かつつ明た

嚙子向奥

又さるる蓮の池
色でふかき妻とこがより
むせぶ中

案山子

山内自裁詔

妙でそのまひとゆたより
 七々文字の
 実ふりある
 五々の中

合あひ一ひと
奪うば相あひ

さーたり

百度より乃

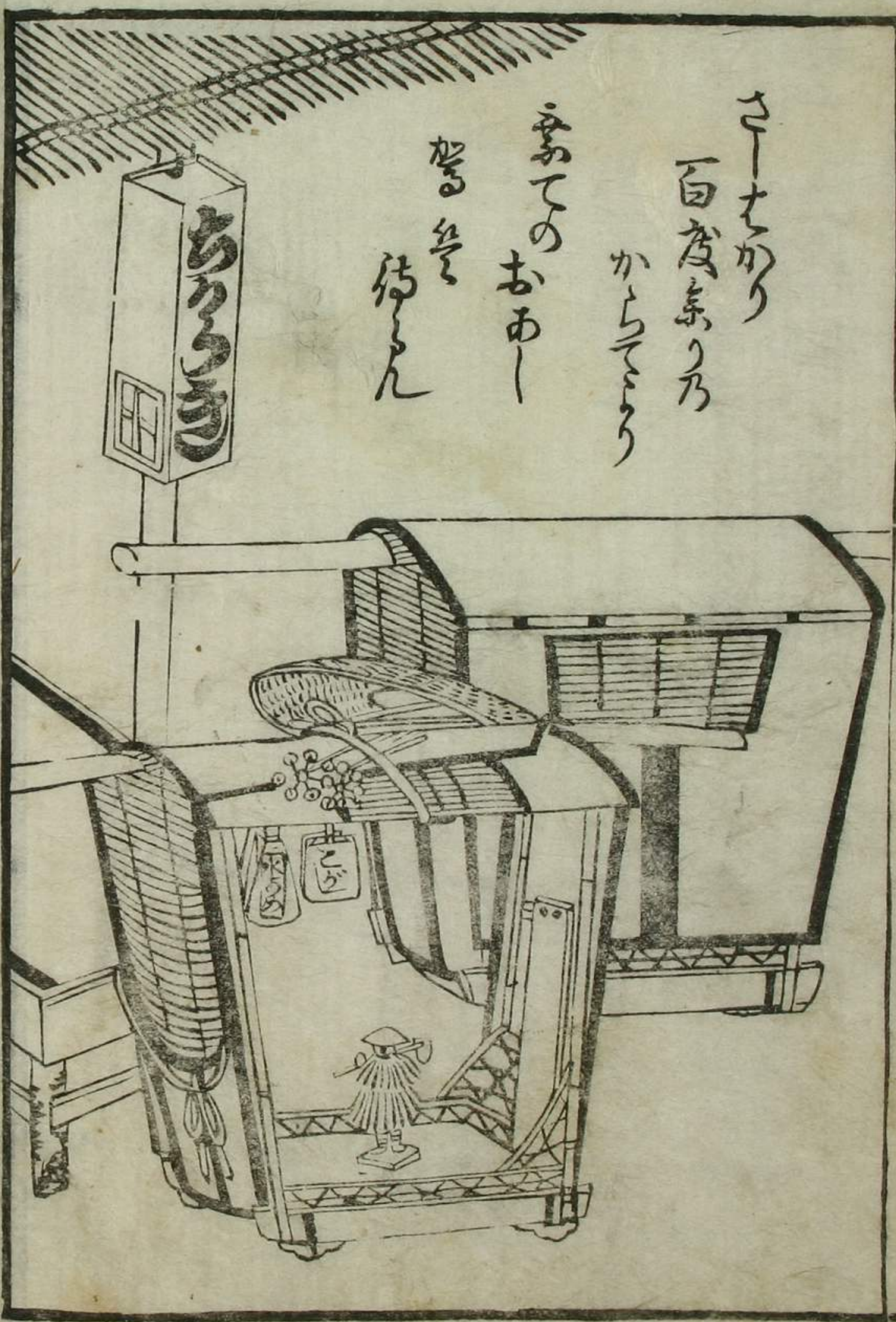
からてり

あての
おあー

あそ

ゆん

あつち



鳴子氏

○ 四套續

爰こゝふ鎌倉くまがら繁榮はんりやう乃のむじはるはるさる雪ゆきの下町したまちの軒のきと
 かうかう比ひ裏うら家か九尺くさつの店みせもむさうさうやうやうさあぬさあぬら
 一人ひとり娘むすめ親おや子こ喰くも負ひん樂らくににるるありこのむすめ此こ娘むすめ鬼おにを
 十八じゅうはちとあゑあゑよくもなれなれ標めい致しやうななううまふまふあひ
 つきありてさる田舎いんやの犬いぬ賣うれれすす安奉あんほう公こうのにありありが其
 目めよりけ娘このむすめ俄ふみみ百ひゃく辨べん惣そう才さいのの捨すて出で来きてて腫はれああがが重おも

二目とハルと奴隷つきふなりしうへ田舎乃にはさる事と
たれくあはすのよふおぬく病ぐあやくとありそ
氣成あきし娘おぬくを碓のこんおくのうり物
してふれ内のお祖師さあ病ぐあせんそ目下病は
娘をおたる里の病ぐあきふあまふ連へひさる生
三人あま名へ呼ぶと譚名と喝ふ一個へあむた指は
一個へかんち鉄義一個へあむた八五良とけ三人
れ交難みあむた生前は死誹謗乃們あむた

ちの顔が長とつう時いたのお顔が長くなる
 うむとおとよあさううううううううううう
 きねへおとよあさううううううううううう
 な顔あさううあさううあさううあさううあさうう



魚の乃かきまむちうききりたててはれが程入るま
のねくろまりのたふりせうのりいんとんぞの
半ハすね(魚)のたの魚やあつるあつる
まうでいはいことよ乃後目でもかきまむちやが
うりと出らわをトてききものなる聲ぞうう
かきん「よーてきんあせの破ふと活志なにも
一足てよあのかなくなつてうう洗濯ででは
をそぞああわをれううあけこ人よあけ

あハから程入るま三死ありこちとていんかなうう
とらあまむちううううんまきあう「たがわう
んとう乃まきものであつていんとんぞの死人ぞ死あり
こちとてううううあはれすうう「うううわうう
死おねあまの目うう「たうあいあさんなああ
むちうにだうううううとちとをまきまきせて
きあああ湯入るてうう肉碗とあつる
ソレテ水もくんであは「コウ「あバさんあめせいひ

ろなびうう門足計くきとらて疫病除の甚あきとつじ
ておきあき移うつわんちさんかちうろとさうあき掃あきのりへぐ
けて火ひ吹ふ竹たけがころげこんでのもさぶさううん出
ておきあき移うつたあささんかどぬさうもろこち移
よふめのけへあらてはきとけておき移うつヲヤ
ふまうへさうよとさへるもやあ火どちのうへぐ
らひぬとらさうたひるさへせあッノ火どちもッ
ああきのやまひあきいいふふささああせておきぬ人づゑんさうと

[illegible]

なわらあ「^{あつ}り」ぶようのぢぢする トいふふもこの明店のれをひらわびて中とまき
くあつこととまきあ人明店のうちこまき
あつて 明店でこのちしてはるる あつて 「ぶようのぢぢはせん」
あつて 「明店の肉々戸をやめあけてこく」 あつて ぶようぢん沼を
なまき 一斜とてきてささい代にあすははるる あつて 今を
肉がさうとんぐ事がある あつて 「さうと初てさう現金
でさうちやあつてはせん」 あつて なる程さうさう
ぶきさうさう あつて 長急「^{あつて}」 紙てきたりの
ぶのか「店れ成ひつた」 あつて 紙さうさう

いさや「さう通う」 あつて 中れ成つて戸をさうさう あつて 変
な事よ あつて 新宅の程さうさう あつて かのあつた あつて ぢぢ
てんやうさうさうさう あつて 無さうさう あつて ぢぢ
とんまうさう あつて ぢぢ あつて 息のたおらあ
かな「さうさう」 あつて 通う あつて なるさう あつて なるさう
あつて 寺の あつて なるさう あつて なるさう あつて なるさう
あつて ア「あの事おあつたさうさう あつて なるさう
出さ一はさうさう あつて なるさう あつて なるさう

見てあんな様とくくあやうが^{あやう}「さうさう一解^{あは}志^{あは}めくねで^{あは}鉄^{あは}肉^{あは}とく^{あは}とく^{あは}た^{あは}の^{あは}ま^{あは}で^{あは}」
せのからあひの^{あひ}罪^{あひ}よあな^{あひ}ね^{あひ}に^{あひ}「コウ^{あひ}ばん^{あひ}ち^{あひ}生^{あひ}やて^{あひ}の^{あひ}骨^{あひ}あ^{あひ}ず^{あひ}ふ^{あひ}の^{あひ}ぬ^{あひ}さ^{あひ}る^{あひ}う^{あひ}様^{あひ}の^{あひ}あ^{あひ}ふ^{あひ}一日^{あひ}
の^{あひ}せ^{あひ}ど^{あひ}い^{あひ}せ^{あひ}」^{あひ}と^{あひ}う^{あひ}の^{あひ}な^{あひ}小^{あひ}半^{あひ}の^{あひ}お^{あひ}ま^{あひ}が^{あひ}さん^{あひ}ご^{あひ}ん^{あひ}を^{あひ}す^{あひ}
ら^{あひ}あ^{あひ}「^{あひ}ど^{あひ}よ^{あひ}と^{あひ}く^{あひ}」^{あひ}大^{あひ}登^{あひ}さん^{あひ}の^{あひ}「^{あひ}窓^{あひ}の^{あひ}障^{あひ}子^{あひ}を^{あひ}りて^{あひ}
の^{あひ}て^{あひ}い^{あひ}あ^{あひ}「^{あひ}ふ^{あひ}が^{あひ}大^{あひ}正^{あひ}の^{あひ}障^{あひ}子^{あひ}と^{あひ}て^{あひ}あ^{あひ}ぐ^{あひ}あ^{あひ}る^{あひ}く^{あひ}ま^{あひ}
ナ^{あひ}ア^{あひ}三^{あひ}番^{あひ}が^{あひ}う^{あひ}く^{あひ}鉄^{あひ}車^{あひ}の^{あひ}に^{あひ}五^{あひ}十^{あひ}も^{あひ}つ^{あひ}て^{あひ}あ^{あひ}る^{あひ}う^{あひ}と^{あひ}
あ^{あひ}の^{あひ}て^{あひ}「^{あひ}た^{あひ}が^{あひ}あ^{あひ}り^{あひ}と^{あひ}ん^{あひ}ふ^{あひ}ふ^{あひ}お^{あひ}と^{あひ}い^{あひ}の^{あひ}う^{あひ}の^{あひ}鉄^{あひ}い^{あひ}」

ね^{あひ}お^{あひ}人^{あひ}う^{あひ}ふ^{あひ}の^{あひ}食^{あひ}事^{あひ}り^{あひ}が^{あひ}う^{あひ}サ^{あひ}く^{あひ}「^{あひ}さ^{あひ}う^{あひ}」^{あひ}ま^{あひ}う^{あひ}て^{あひ}く^{あひ}は^{あひ}
お^{あひ}ま^{あひ}が^{あひ}い^{あひ}ま^{あひ}の^{あひ}ま^{あひ}せ^{あひ}る^{あひ}づ^{あひ}い^{あひ}く^{あひ}ね^{あひ}「^{あひ}う^{あひ}ち^{あひ}あ^{あひ}う^{あひ}て^{あひ}お^{あひ}は^{あひ}す^{あひ}
た^{あひ}ま^{あひ}の^{あひ}時^{あひ}ふ^{あひ}出^{あひ}ら^{あひ}「^{あひ}き^{あひ}め^{あひ}う^{あひ}て^{あひ}う^{あひ}ら^{あひ}つ^{あひ}と^{あひ}て^{あひ}い^{あひ}ね^{あひ}」^{あひ}ト^{あひ}の^{あひ}目^{あひ}ま^{あひ}て^{あひ}
あ^{あひ}と^{あひ}ね^{あひ}こ^{あひ}が^{あひ}あ^{あひ}る^{あひ}と^{あひ}か^{あひ}せ^{あひ}れ^{あひ}て^{あひ}の^{あひ}ク^{あひ}と^{あひ}「^{あひ}ニ^{あひ}ヤ^{あひ}ア^{あひ}」^{あひ}「^{あひ}い^{あひ}ま^{あひ}め^{あひ}の^{あひ}
あ^{あひ}と^{あひ}ず^{あひ}う^{あひ}の^{あひ}ま^{あひ}と^{あひ}あ^{あひ}い^{あひ}う^{あひ}う^{あひ}ん^{あひ}づ^{あひ}」^{あひ}「^{あひ}フ^{あひ}ラ^{あひ}」^{あひ}「^{あひ}い^{あひ}ま^{あひ}め^{あひ}の^{あひ}
き^{あひ}せ^{あひ}あ^{あひ}づ^{あひ}う^{あひ}チ^{あひ}ヨ^{あひ}ット^{あひ}」^{あひ}「^{あひ}え^{あひ}な^{あひ}ふ^{あひ}ら^{あひ}ち^{あひ}が^{あひ}あ^{あひ}る^{あひ}い^{あひ}ひ^{あひ}ふ^{あひ}」^{あひ}と^{あひ}ま^{あひ}
ま^{あひ}う^{あひ}た^{あひ}お^{あひ}に^{あひ}ま^{あひ}よ^{あひ}「^{あひ}あ^{あひ}む^{あひ}さん^{あひ}す^{あひ}ば^{あひ}い^{あひ}て^{あひ}る^{あひ}」^{あひ}「^{あひ}サ^{あひ}ア^{あひ}く^{あひ}
か^{あひ}さん^{あひ}を^{あひ}ま^{あひ}あ^{あひ}ら^{あひ}う^{あひ}て^{あひ}戸^{あひ}を^{あひ}開^{あひ}か^{あひ}お^{あひ}ん^{あひ}ね^{あひ}う^{あひ}て^{あひ}出^{あひ}け^{あひ}う^{あひ}
「^{あひ}そ^{あひ}う^{あひ}あ^{あひ}と^{あひ}と^{あひ}後^{あひ}より^{あひ}ま^{あひ}あ^{あひ}で^{あひ}道^{あひ}ね^{あひ}ら^{あひ}づ^{あひ}い^{あひ}る^{あひ}ん^{あひ}づ^{あひ}あ^{あひ}む^{あひ}わ^{あひ}

勇月
 うぬと
 いせん
 十西北
 花より
 渡
 園子ハ



うやまろていふがくおぬとんおめりらるてんね
あちむかじい愛て見よコウる番及どんコサはぐそ
登さん「まぐとやん建立」ヲあきり「まらとやん
なんとも中無事うその言を一切うてんあせ
まぐとやん「モノなんふと無のろて」ヲ「血の乃乃薬にする」
「まんて進ませすい業あるなうてんあきり
こそ乃標のぬれをありらるて中無すいよ
ト中であつ「こまをぬつる魚」てくれるあつたををまむ
かんち鉄「おはけく
かんち鉄「おはけく

そでふみやとみまてんあめいぎは標を角あき
ふらひらまはて統う「あきあき」誰と肩とえ
てん「かうも持もぬりく」そんまはね何
で「おきあき」さううつてん「こまあき」
かんち鉄「そと水車」ナ水車六角むむ
なう「こまあき」あき「こまあき」
あきあき「こま」だあさん「角あき」
は角あき「あき」あき「あき」あき「あき」

ろくろおちやまゐ「アイ」茶^{ちや}あぢやまよ^{まよ}コウ^{こう}だの
さんおりの月け魚子へあせたいよんぞうは角^{かく}うて
おきね^{おきね}集^{さん}宿^{しゆく}のめく大まふ肩^{かた}のなる半^{はん}ぞう^{ぞう}コヤ^{こや}そ
まあ^{まあ}後^ご生^{せい}のヨロいさん^{さん}あモ^モとんぞう^{とんぞう}二角^{にかく}あふ
ぬ^ぬ勝^りてもじらばさ^さい^いヨ^ヨ「人の愛^{あい}ときね^ねく
魚^い」とらう^{らう}じあ^{じあ}コ^コだあさん^{さん}おと^ととん^{とん}あふ^{あふ}て^てま
なび^{なび}あふ^{あふ}を^をえ^えせ^せと^とあ^あつ^つ魚^いづ^づひ^ひく^くけ^けい^いあ^あふ
つらふ^{つらふ}な^なせ^せ「^{くんと}い^いは^はく^く持^{もち}と^とん^{とん}持^{もち}も^もね^ねん^んと

を一本^{いっぽん}づ^づ益^{えき}飯^{はん}あり^{あり}肴^{さかな}なり^{なり}ふ^ふて^て様^{やう}と^とひ^ひいて^{いて}ま^まま^まう
が^がく^くて^て久^{きう}河^かと^とふ^ふと^と目^めう^うね^ね我^{われ}か^かろ^ろが^がも^もつ^つま^まる^るぞ^ぞう^う
ヨイ^{ヨイ}だ^だあ^あさん^{さん}河^かの^の肴^{さかな}ふ^ふり^りぬ^ぬい^いん^んど^どを^をは^はか^かむ^むり^りコ^コレ
さん^{さん}ど^どハ^ハ海^{かい}う^うま^まま^まる^るう^うふ^ふと^とあ^ある^るお^おい^いハ^ハ精^{せい}進^{しん}ぞ^ぞう^う
ら^らア^アコ^コら^らう^うよ^よコ^コヤ^ヤだ^だあ^あさん^{さん}う^うの^のも^もや^やあ^あん^んく^くら^らう^う
お^おい^いハ^ハい^いろ^ろも^もあ^あふ^ふと^とう^うの^のま^まで^であ^あご^ごの^のろ^ろう^うハ^ハお^お稽^き
を^をぞ^ぞう^うあ^ある^るで^では^はさ^さと^とう^うい^いろ^ろて^ても^もあ^あこ^こじ^じい^い肴^{さかな}を^をさ^さる^る
ハ^ハあ^あふ^ふと^とあ^ある^る吸^す物^{ぶつ}碗^{わん}の^の中^{ちゆう}で^で銅^{どう}が^がひ^ひち^ちや^やく^くち^ちや^やを^を保^{たも}

てゐる観蓋の玉子焼すていごいんをよまうとわけしうと啼なく
牛房ごぼうのふよふがぬぬよ昌さう々々ぬそのまんは出いていあ
くもさうもあーごびさついでる何ともあんなりぬえん
るで大平の蓋ふたをとると海老えびが伸のびをするゝゝて終ひけ
で押おさなあるゝの鼻はなをたぢられし肘ひじがといへるさ
のねついであゝ半はんがねゝうそも志しんんサカんサカ
焼やきそのお肴さかなうぬゝ沼ぬまがぞろゝ沼ぬままぢうまぢうのゝコト
まろゝうは沼ぬまおまがやもまの施せままぢうぢうおまぢうはじ

めさうとらトちやんでいふにうとああるとらうとらうてちやんをな
は刻ときがううこをまてかむせて目を白くするぬゝまゝく
まもが「ば」あつてく「ぬ」あつてく「ま」あつてく「ん」あつてく
がうなりのいゝぬゝぬゝ半はんがたゝるゝゝうとらく
「ともまゝが沼ぬまゝゝて沼ぬまがぬぬなうたよ」んちんゝゝ
「と沼ぬまが彫す化かてゝゝまのやあゝんちやあゝん
ゝと耳みみつとらう「チャクあつてぢうぢうぢうは様やうの沼ぬまぢあぬ
コレちやんとゝんぬぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ですゝぬぢくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

碓^すを一^{いち}味^み「みん^{みん}ぞ碓^すだと碓^すを一^{いち}味^みおま^まあま^ま目^めを
とてきたのうまきやな」^{まきやな}「^{まきやな}うくお^おい^いあむ
さん^{さん}忌^き中^{ちゆう}のれ^れを^をと^とき^きに^にま^また^たこ^こい^いさ^さあ^あ店^{てん}を^をが
の^のあ^あま^まり^り」^{あま}そ^そら^らあ^あと^とう^うと^とア^ア雨^{あめ}が^がせ^せく^くお^お川^{がわ}
と^とち^ちて^てま^また^たよ^よ」^{あま}い^いく^くき^きや^やあ^あ後^ごを^をと^とく^く
お^おけ^けし^しあ^あま^ま出^でる^る淀^{よど}の^の橋^{はし}を^をと^とう^う鳴^{なり}子^この^の里^{さと}よ^よじ
か^か里^りに^に人^{ひと}ハ^ハ雨^{あめ}具^ぐ終^{しゆう}と^とな^なあ^あれ^れが^がて^て雲^{うみ}也^やれ^れと^と案^{あん}
を^を俵^{はたけ}き^きと^とま^まぐ^ぐゆ^ゆく^く處^{ところ}ハ^ハ速^{はや}風^{ふう}と^とな^なて^て一^{ひと}羽^はの

黒^{くろ}雲^{くも}が^がる^ると^とな^なに^にが^が忽^{たちま}ち^ちと^と急^{いそ}雨^{あめ}さ^さる^ると^と碓^すは^は恰^{あつちや}も^も
と^と馬^{うま}の^の溜^{ため}小^こ使^しと^と碓^すち^ちの^のあ^あま^まと^とく^くあ^あじ^じふ^ふは^はい^いの^の者^{もの}
う^う後^ごさ^さに^にさ^さぎ^ぎと^とひ^ひき^きや^やと^とひ^ひと^とろ^ろか^かう^うと^と碓^す
れ^れ松^{まつ}の^の木^き乃^の陰^{かげ}へ^へか^かま^まよ^よん^んて^て命^{いのち}を^をく^く大^{おほ}息^{いき}を^をい
て^てお^おれ^れま^ま」^{あま}お^お後^ごく^くさん^{さん}の^のあ^あか^かが^がさ^さに^にね^ねい^い生^いた^たん^んの^のと
を^をま^まよ^よう^うあ^あげ^げね^ね」^{あま}ソ^そレ^れを^を孫^{まご}が^があ^あら^らの^のソ^そレ^れと^とう^う
年^{とし}が^がこ^こに^にあ^あ」^{あま}ソ^そレ^れを^を密^{ひそ}に^にう^うら^らあ^あ」^{あま}い^いや^やよ^よお^おと^とう^う
し^しる^るさん^{さん}ね^ねち^ちち^ちと^とる^るそ^そノ^ノ後^いに^にや^やい^いと^とお^おの^のや^やあ



[illegible]

まゝにうがかんぬいねいやりうなむかでゑちう

いそ^{たろ}後^ろぐぐぐぐよのや^あ盤^いつが^く戻^も成^{なり}「イヤ」^{あや}れたあ

志^ひもた^ひ移^ひぢで^ひろ^ひの^ひと^ひよ^ひき^ひあ^ひる^ひア^ひニ^ひ監^ひつ^ひ平^ひの^ひ中^ひに^ひ

いさくと浮てゐらあど
あな様
 トせみをつまんであのヲや
 つがの中とのをきこ
 る程
 屏

らふぢぢ色いろみちと藤ふじ葉はがつる「おやニサうらわ

が田舎^{いなか}緋^やでるのあぶりむら^{そめ}漆^しま^いと^ろてむ^ろろ

小笠おがたどうきふふふの松葉茶色まつはぢいろよなると

いふをあらうその^{ヤろう}皮^{あか}良^{あか}白^{あか}ひをがせてゐん乃

まゐりておまじめびくろアキをくられてアサ

なぐそと少く分るおんそんあうあまれくたふふくまなひ

きゐてあり候と申物こらんの要のさゝつ多あひ盤ふかひの白うと

その白く巳ろませんまるくやきでハ目も見へません

よく寝る由もせんかふあかじな者へ何

ほどちやうと思ふが、よく「くそどど」事づゝめ
 極あつた
 校台さ

きでいふくまぢくあつてやうくさぬをきくはと
いとろくえの松の本ぢふつ道きてくる
目ふあつたやぐ

どんがうす
 ちの鳥つもと おろく勇ざりし 縄あじとよて 中ぞんていあ
 えちそう

[illegible]

一 延まふ トろきの氷あめをほと百性ありめす
 ひらふまけあの中ろろろそろそね出す 百性

つらゆまど化^{むさ}されてあつるそうご^{あふ}おんくちきちとんち

まじつちにおぢやうやまもいふけ出もじろくそでぬこるごもぢ
のち失せとていゝがんちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ふろて松の木の
ゆきあげてるる
おとしん
どよ
なまは
そぞく
あや
又
うんこ
ころ

よんぶとんお色いろど
ははいもかうままらぬらぬ

とてやう志をふあやあづていぬく志の擧前乃

ひきせう
百勝之

三入
アハミ
アハミ

あはれ
そういふてもてゐるやあかぬ

ちふ
あかぬ

おせふんをれを成てこうさじを置

が知恵とて金とてあとの芋島のふて芋汁

[illegible]

らふかづてゝせよふりなるとんぐんぐきんいうく

「とらぬうだ」
「す池のろふとよる」
「ナセのひつ乃」

合羽と云ふが第一細ユキきとので夏やし雨

ちくわし 水玉 ころも ちんちん ぎんぎん すいも

お人々といふ人々のまゝに教へてゐた。「おそろかんさん素
でめありひようたん」トわめてる内意やう「なんごうるり川
首の玉がぬすんでおかしやういとおくさんよそへる
あつなツヤと大きな芋虫がうつつでもよ」おもひー おろこん
といまう芋のまふあつてゐる芋虫をさしひ
あまするひまじ小芋の葉の合羽へかぶるる むむさんあきもづぬ
ぬれ襟中こころぢうはなるこづぶぬは襟中こころぢうさうゆス「アおん
晴間と松井下蔭小雨傘の骨お王損三人きて文
珠の知恵ぬるな乃雨具ぬは嵐をやりうの孫も出バ

であらひなき
トわめてる内をみ
 つらとあらなき
おれん
 なんふらふ

首の玉が^{くひ}ゆるみたるかゝりなりと云くさんにてんき

ちろなヤク火きぬ芋虫ふちついでるよーバあや

といふう芋のたふきついでる芋虫をとりひ
あとりひまじ小芋の葉の合羽の中に入る
ぬむさんおきもつぬ

ぬれ講中よなるこづぬは講中さうみ

晴間と松の下蔭に雨傘の骨を置損三人あて文

珠の知恵ぬるは乃雨ぬ是嵐をちうの祢も出六

丁と笠がらりとあるる所ぬ雲ちる雨やんで雲んを
 一サアくやんできまにお堂までうあはけようかる
 ずるまふとよるぶとあくのさうトウとく松の
 とふぬるよフアドすべらわぬちやわねくぞうぞう猫の
 根やれりうとふ身ぢりぶサアくあぶあうふらぞく
 りとちよぞうクアふぞうへふんごんごからむとひら
 さくらあなちてわく内で矢の雨外で水のあり
 ちがせがねのうリヤ又すづるどくち町の地びく

「サア、やんできまほしお堂までくち付けよ」
うなると

すべるまふとよぶとあくるのころ
トウモロコシの
木のえとまふ
あくる

とぬるよ「ヲ」下すべらあなぢやあねぐぞろぞろ猫の

根^ネ子^コ身^ミぢ^ヂサ^サク^クあ^アあ^アふ^フさ^サぞく

いそちよぞう^{イソチヨゾウ} 百^{ヒャク}ぞう^{ゾウ}へみん^{ミン}ごん^{ゴン}ぞ^ゾから^{カラ}も^モ異^イを^ヲひ^ヒら

さくらあなをきてわく内うちで矢やの雨外そとで水みづのあり

中世がねのうりや又ずるどくち町の地びん

そんなにしようもなかぶぐを俵でうとめ「おろ方
 ハ志どうんぢらういふぢやらわお人づくのつぎの
 何れもアこぼれうも賣ひありさねト登こまは三二天あ
 「ばせ」のんだふち出とうろ「ヨロ」ありく己らふ今の
 おやぶぐの袋とちびで仏胸袋をあいて
 いりてふ米とうろて十五文とーらてくらあまるていじ
 ト見せむふあるぢうきようぶちうけてんがう
 出せーが二三丁ゆけはんひ乃まで「ア、おきり下向の
 ぶんねさまあなはんのきりおきりかみひませぬ

ハ
ホトコ^ゴズ^ンえんぢりい^ニ見^ルや^らわお人^ノづの^ミまゐ

何れも尤アこがけりも賣ひたりとせぬ
ト此こそさき三人あ
て衆もめいさや

「ぼんがふちをうろ」
「ワード」
「あらく己」
「ふ今の」

おやどがまぐの仲長とあちびいで、あちびいで 弘胸袋をぬいて

いふとて十五と一とてくらあまるといふ

ト見せたるふあるをききしうぶをけ
 出せしうぶニ三丁ゆけんとし乃て「ア、おきり下向けりの

ふんねさまおはらんのやうな是乃かみひませぬ

かこじたる者ゆりや おも元をうてまするます「こ
てんがうおとまたとまでいねう」「えんを竹とさう
どんな」^{たまごハ}さううどんをね志んの事よ伏へふと連
ごてんをう十五文のころてさういふの肉ふいけぞ
今十五文あるちやあせうといせうめとさういふは
ぬが三人なう一丈とりのねのうと物へは仏胸のう
白へ来て八合などある相場が安くても百りのなる
が拂物さう十五文して買てさうさおさむくさう

てんがうおとよと事てふとねる一んふりふとふ

どんな なるきハ 志ようどん 志 ね 志 んの年 コハ 月 コハ 入ふ コハ 連 色

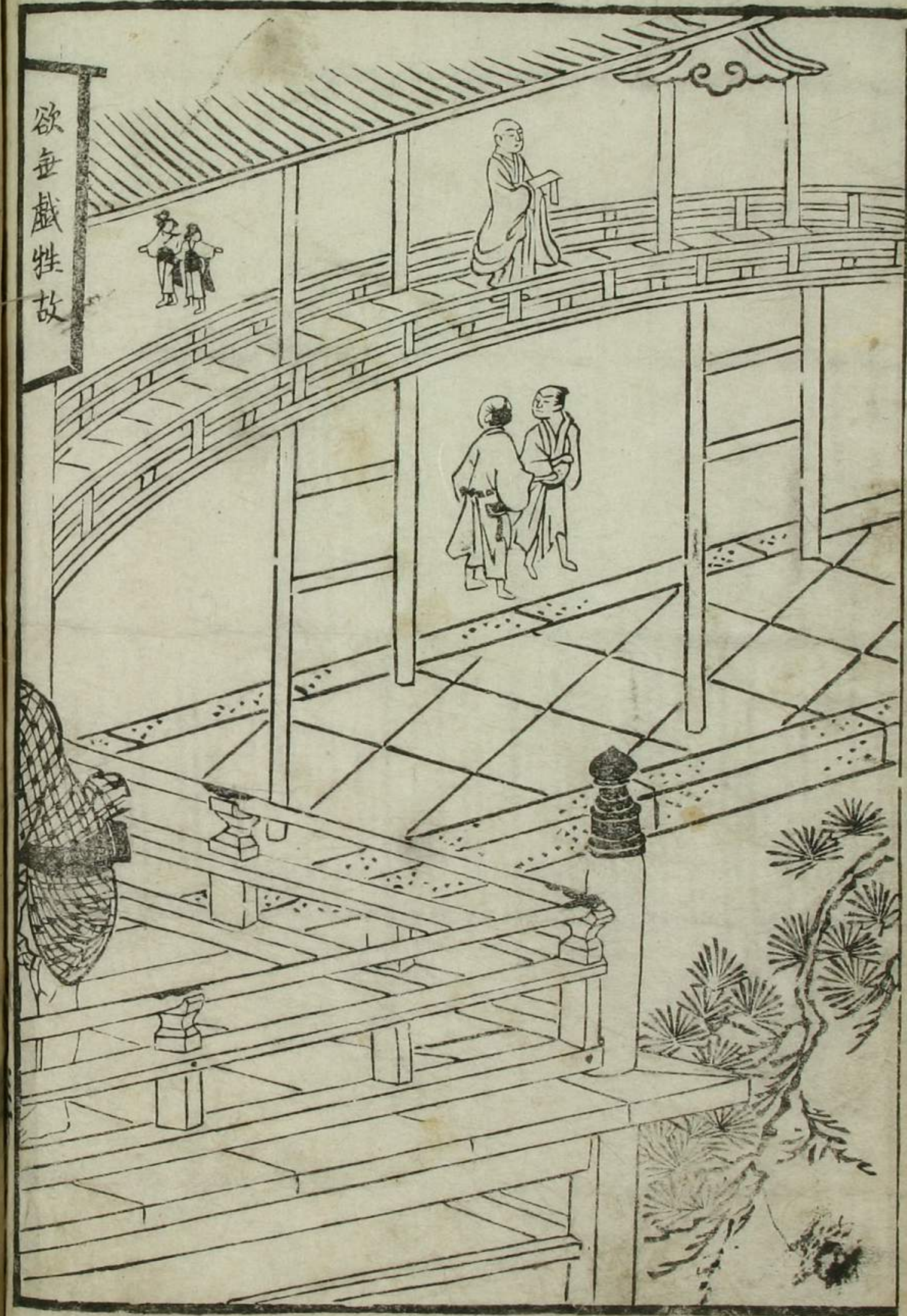
ご入会者十五名のところでございまして、この内ふいけがございまして、

今十五文なるをせしむるなり

ぬが三人なぐ一丈ものねるゝ物ハ公卿等ヨ

白米で八合^{そう}とある。相場^{ちやうど}が安^{やす}くても百^{もも}りの^{なり}の^{なり}。

ぶ拂物^ぶと^う十五文^{しご}として買^かて^まさ^さこ^こお^おむ^むく^く日^ひあ^あら



三人ぐ五又づいの命いのちをなほせうたまたまて金
く「おちまひいむな歌うたよ々々の難がたとて
まうひひるいふ「かじむきいひるいふはあす
五又の買かひやう「きりきり」いひるいふ「いふはあす
けらんのもていひるいふ「いふはあす」いふはあす
その難がた五又ぞていふはあす「いふはあす」いふはあす
ト松まつのうはあすいふはあす「いふはあす」いふはあす
十五又かぞていふはあす「いふはあす」いふはあす
「大出だいしゅきく」十五又
ト松まつのうはあすいふはあす「いふはあす」いふはあす
いふはあすいふはあす「いふはあす」いふはあす

かろけあうこうのうはあすいふはあす「いふはあす」いふはあす
をさうんとせ「かぞていふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
か「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
おあづけい「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
おん「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
よ「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
病やまひる「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす
とていふはあすいふはあす「いふはあす」いふはあす
よるこ「いふはあす」いふはあす「いふはあす」いふはあす

トでこのやうな事をしてゐるやうに思ふたのであると云ふコレエイ
かこみさうな事をしなうといふのだと云ふのやうな事だ

志事あるもてんかうとあるといふちやあいざうかうといふか
うにかうと者のかえをう五丁町や二丁町乃お茶屋
の門もはらうて朝のひまやうと云ふのかある毎日の
志事かもうてあるおの志事あところだぬきのあて
のむくあ志らぬとあつとむくあやあ子子とさう
せんかうをけしてあるまあるとさうと客はでこかん
著とに文書とあるとさうと来のねと男と小姓とす

五文せあるとさうしてかりきやあづれあんのこいへとせう
 とさうもねばこぞきこむらうめが「^{たふ}あつるきもよふん
 づぬしてさうとぬげらあ世^も危^いなる十五文ぶよう
 をひとふふさうやうさうて二茶^{ひとちやがま}金とぬらくとさ
 うらうて喰^{くい}むあふすぬいとや^やぬとふとさ
 なるまんむうぶのさうらうあふのとこさぬとさうさ
 ちやまありや^やぬふくやが^が代を勘定さうて
 つんばあさうく「^{ふん}とさうとさうお宛^あへぬつう一^{てん}宛^わも

白髪を染めたるが前持師の法といふ者でござるすも感
乃染るゝ心付ておかくといふ身もさういふの事をお目も懸
はた以後はお心をおおを付の法は小株番一袋あけほさ
「ト」只さう指の京物などおありて日ちさ事ハ三人
あゝあきらめてらん身へさ 鼻をさんウゝとくなせのく
「うん」さう鼻をつはせさ「おめも喉知るあはん」あは
乃女ふつきあつてさ「おめハ貞女兩婦よまみずさ」おめも
此化方片目さん「かゝりてなんもゆはせぬ」さうさじん
あゝあゝさういふもさ「おまの世に小あつておなうさうさ
かうといふはぬおめもさういふもさよく指切してらんあせす
よ六年あつておめさういふとくおめさういふさういふさ
うゆ大さなふらさうさうさうさうさうさうさうさうさ
かんふしてらんあせさ「おめ」さういふとくおめさういふ
一度おめを切てなまは悟もひらくる妙法蓮華今
と真の信心の賽ど有かこさ

鳴子尻大尾

振鷺亭主人著
納^{おさめ}太^だ刀^ち

中本二冊

此篇ハ右の鳴子風ハ又ハるゝの
三人の知事ハひそくその盆山ハ
大山ハぬけあうして故屋よとあり
まよりいのかかへるくらよのさるの
おはろき紀行なり

追刻上梓

東都江戸橋四日市

書舗 群書堂佐助 梓行

江戸橋

